

日本天文学会 1990 年秋季年会記事

1990 年秋季年会は 10 月 16 日 (火)~19 日 (金) の 4 日間、仙台市民会館で A, B 2 会場を併用して開催した。口頭発表による講演数は、A 会場が 129, B 会場が 131 で、参加登録者は 400 名であった。なお座長は次の方々をお願いした。

	A 会場	B 会場
16 日 午後	竹内 峯 尾崎 洋二	土佐 誠 小山 勝二
17 日 午前	柴崎 徳明	舞原 俊憲
午後	辻 隆 斉尾 英行	坂下 志郎 吉澤 正則
18 日 午前	稲垣 省五	向井 正
午後	須藤 靖	木下 宙
19 日 午前	唐 牛 宏	福井 康雄
午後	岡村 定矩 小暮 智一	川口 健太郎 佐藤 文男

ポスターによる発表は Post-deadline papers 3 件を含めた 22 件で、18 日午後 3 時 30 分から約 30 分間ディスカッションの時間帯を設けた。またこの時間帯に B 会場で、年会講演用のビデオ公開も行われ、70~80 名の参加者があった。

◎記者会見

秋季年会初日の午前 10 時から、年会会場 2 階の会議室で記者会見を行い、主に年会トピックス 3 点について解説をした。それらのテーマ・説明者を次に示す。

司会・進行役として、理事長・庶務理事が出席した。

- (1) JNLT の 8m 級化について……………山下泰正氏
- (2) 基準電波座標系の構築について……………高橋幸雄氏
- (3) ミリ波干渉計による、おうし座分子雲赤外線源の 98 GHz 連続波, CS (J=2-1) 観測 (II)

……………川辺良平氏

出席報道機関は、河北新報、産経新聞、読売新聞と東北放送の 4 社であった。

また会期中に 14 の懇談会・研究集会が行われた。

賛助会員のための展示コーナーには、(株)ニュートリノ、浜松ホトニクス(株)の 2 社が参加した。

懇親会は第 3 日目 (10 月 18 日 (木)) 午後 6 時から、県労働福祉会館 (清滝の間) で開催した。出席者は 200 名で、司会は東北支部理事の齋木 修氏が担当した。

◎公開講演

会期第 2 日目の午後 6 時 30 分から一般市民を対象とした公開講演会が A 会場で開催された。この講演会は、仙台市立天文台主催・日本天文学会後援で開催したもので

ある。

講師は、国立天文台教授の海部宣男氏で、「宇宙観測の最前線」と題して、これからの天文学、特に赤外線天文学を中心に話を進められた。そして最新の話題を紹介しながら、これらの研究に、望遠鏡製作の高度な技術がいかに大切であるかを力説しておられた。講演が終わって小・中・高・大学生及び一般から幾多の質問があり、それぞれに明解な解答をしておられたが、最後の小学生の質問『宇宙の果ての外はどうなっているのでしょうか。』には、答えに苦勞しておられたようであった。

◎臨時総会

今年 5 月の定期総会で決められたスケジュールに従って、会費改訂のための総会を開催した。

◎会計理事から、会費改訂についての詳細な説明があり、年会事業の支出増傾向については収入増を計る具体的な方法が提案されたり、その他幾多の卒直な意見が出され活気のある総会であった。

会費改訂案は、評議員会の承認が得られれば 1991 年度 (平成 3 年度) から実施することになる。

◎定款改訂ワーキンググループの西城幹事が、定款改訂の中間報告として、通常会員へのアンケート結果 (解答率 70%) の幾つかを紹介した。そしてアンケートにみられる会員の意見をも尊重して、今後の改訂作業を進める旨の報告があった。

学会だより

1990 年度 (第 3 回) 日本天文学会研究奨励賞候補者の推薦について

会員の皆様からの資金援助によって、1989 年度より標記の学術賞を設けております。

この賞は日本天文学会々員で 35 歳以下の若手研究者を対象としております。候補者推薦に関する手続きは、『日本天文学会研究奨励賞内規』に従って行いますので、会員の皆様からのご推薦をお待ちしております。

推薦書式は特にありませんが、推薦理由、推薦者の氏名・所属、候補者の氏名・所属・生年月日を明記して下さい。

◇推薦締切: 1990 年 12 月末日

◇推薦書宛先: 〒181 東京都三鷹市大沢 2-21-1

国立天文台内

日本天文学会研究奨励賞選考委員会

◇問い合わせ: 日本天文学会 (0422-31-1359)